

研究課題名「食道癌周術期におけるステロイド使用が術後回復に与える影響の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2017年1月1日から2019年12月31日の間に当院にて食道癌の外科手術を受けた方。

2. 研究目的・方法・研究期間

【背景・目的】

食道癌は非常に侵襲の高い手術として知られており、手術時のストレスが一因となり術後に合併症が起こる可能性が高いといわれています。術後合併症が発生すると、集中治療室滞在期間や入院期間が延長し、身体的にも経済的にも負担が発生してしまうので、術後の合併症予防として周術期にステロイドが投与されることがあります。しかしながら、近年では胸腔鏡、腹腔鏡を用いた侵襲性が比較的低い術式も多く実施されており、一概にステロイドの投与をするべきか、どれくらいの期間投与するのか一定の見解は定まっていません。そのため、周術期ステロイド投与および投与期間の長短が術後の回復にどのような影響を与えているのかを検討する必要があります。そのため、この研究は食道癌周術期ステロイド投与期間の違いが術後の回復に与える影響について検討することを目的として行います。

【方法】

カルテ調査による後方視的調査

【研究期間】

実施承認日～2021年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、身長、体重、既往歴、癌発生部位、病期進行度、術式、手術時間、気管内挿管期間、集中治療室滞在期間、術後在院日数、出血量、輸血量、体温、心拍数、呼吸数、血圧、血糖値、昇圧剤の投与量化学検査値（CRE、AST、ALT、T-Bill、白血球数、CRP など）、術後合併症（縫合不全、創傷治癒遅延、感染症など）の有無 など
過去のデータを調べる研究であるため、新規での血液採取、問診、検査などは行いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内

で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

千崎 康司

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話 052-744-2819（内線 4227）

FAX 052-744-2685

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院 薬剤部

山田 清文

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話 052-744-2681

FAX 052-744-2685